

OUCH!

月間セキュリティ啓発ニュースレター

# デジタル世界における継承問題について

## 概要

もしあなたが死んでしまったり、一人の人間として何もできなくなってしまった場合、デジタルの世界に残された情報はどのようなのでしょうか？多くの人々は、自分が死んだり大切な人が亡くなった時にやらなければならないことのチェックリストを持っているべきであるし、その必要があることを十分に理解しています。しかし、その事前に検討すべき事項の中にデジタルデータやオンラインアカウントは含まれているでしょうか？その計画の中にデジタル的な特徴はあるのでしょうか。より具体的に表現すれば、デジタルにおける継承計画を立てるべきなのでしょうか。

ここで、あなたはデジタル世界におけるプレゼンスを思い出してみてください。銀行や年金といった口座情報、住宅ローン、家族の写真や動画、スマートホームを構成しているのならば、そのアカウント情報、および電子メールといったものがあがるでしょうが、ソーシャルメディアは、デジタル世界における私たちのプレゼンスのほんの一部であることに気がつくはずですが、もしあなたが亡くなった場合、あるいは近親者が亡くなった場合、残された遺族があなたのアカウントやデータにできるだけ早くアクセスする必要があります。なぜなら、あなたが亡くなったあとに残された既存のデータやオンラインアカウントは、時間の経過によってハッカーに攻撃を受けやすくなり、さらには家族や友人を危険にさらす可能性があるからです。

## 継承計画の作成

一般的な終末期の検討項目の一つとして、デジタルデータやアカウントについて、あなたの希望を信頼できる家族や友人と話し合っておくことをお勧めします。これらの会話に加えて、デジタルデータやアカウントに関するインベントリリストを作成しておくといでしょう。これらのアカウントにアクセスできる手段を提供しておかないと、あなたが亡くなったあとに家族がアカウントにアクセスしたり、データの削除やアカウントを閉鎖したりといった作業をすることが難しくなるからです。生前から保存してきた家族の写真や動画へのアクセスを残された家族には提供できなくなるかもしれない、と考えたら必要性は自ずと明らかになるでしょう。

1つのアイデアは、オンラインサービスの認証情報をパスワードマネジャーに登録することです。パスワードマネジャーは、すべてのログインやパスワードのほか、クレジットカード番号といった機密情報を安全に管理するプログラムです。さらに、パスワードやセキュリティに関する質問の作成、保存だけではなく、利用に際しても大幅にシンプルになるように設計されています。このような特徴は、多くの点でデジタルプレゼンスをカタログ化する強力なツールとなります。多くのパスワードマネジャーは、すべて、あるい

は特定のパスワードを他の信頼できるファミリー・メンバーと共有するように構成することができます。パスワードマネージャーによるファミリー共有設定に抵抗がある場合は、パスワードマネージャーのアクセス方法について文書化し、封筒に入れて封をしてください。これを、遺言に基づく執行人や信頼できる家族の立ち会いの下で封印を解き、開封するようにしてください。このような準備をしておけば、あなたが亡くなったあとに正当な手段でパスワードマネージャーにアクセスし、残されているデジタルアカウントやデータへのアクセスを取得することができます。

さらに、一部のオンラインサービスでは、連絡先を通常のものと同信頼できるものという種類ごとに設定できるようになっています。たとえば、Facebookでは、ユーザが亡くなったあとでデータを削除するか、データを生前の記録として残しておくか如何选择できるようになっています。また、Memorializingは、亡くなった際に登録されていた友人のみで共有できる秘密の空間を作ることができます。最終的には、デジタルに関する継承問題について詳しい弁護士や資産管理の専門家の意見も聞くようにしてください。

## デジタル資産の継承

あなたの周りで友人や家族が亡くなった時に、彼や彼女のオンラインアカウントを回復させたり、アクセスしなければならない状況が出てくるかもしれません。しかし、すぐに行動するのではなく、弁護士や家族と相談することをおすすめします。あなたが家族の誰にも相談せずに行動しているのを見たら、他の家族に動揺が生まれてしまう可能性があるからです。次に、パスワードを探して、どのアカウントのものかを識別してください。家族の誰かがメモをしたり、その媒体をどこかに保管していないかどうかということです。もし調査をしてもパスワードを発見できない、あるいはどのアカウントか識別できない場合は、生前使用していたコンピュータやモバイルなどのデバイスでログインできないか確認してください。これらがすべてできない場合、亡くなった方が登録していたオンラインサービスのアカウントについて、各サービス毎にアクセスしなければなりません。ただし、多くの場合は亡くなったことを証明する死亡証明書と家族であることを証明する資料の両方を提出しなければならないでしょう。最悪の場合、アカウントやアカウントに紐付くデータにアクセスできず、削除するだけになることとなります。このような状況に対処する方法はサイト毎に異なるため、往々にして時間がかかることも覚悟してください。

現代は、物理的な資産だけではなく、老後の終末設計の一つとしてデジタル資産も検討する必要があります。

## ゲストエディタ

**Cheryl Conley**氏は、フィッシングに関する意識啓発活動の専門家です。Lockheed Martinにおいてフィッシングプログラムの構築やマネジメントを支援してきました。現在はSANS Security Awarenessチームを支援しており、SSAP (SANS Security Awareness Professional) 認定を受けています。



## リソース

パスワードマネージャー: <http://www.sans.org/u/Y5Y>

パスワードをシンプルにする: <http://www.sans.org/u/Y63>

OUCH!はSANS Security Awareness プログラムによって発行され、Creative Commons BY-NC-ND 4.0 licenseに従って配布されます。このニュースレターを再配布し、もしくは啓発資料としてご利用いただけますが、コンテンツの改変は認められません。 翻訳その他に関しては、[www.sans.org/security-awareness/ouch-newsletter](http://www.sans.org/security-awareness/ouch-newsletter) までお問合せください Editorial Board: Walt Scrivens, Phil Hoffman, Alan Waggoner, Cheryl Conley. Translated by: 時田 剛